



【 第一志望校は決まりましたか？ 】

すべてのスタートは、自分の目標となる志望校を決めるところから始まります。例えば、「看護師になりたい」と考えていたとしましょう。理想の「看護師像」は人それぞれです。理想の看護師になるためには何が必要か考えた上で、多くの学校から自分の目指す学校を選ぶことができます。直前になってから決めるのは遅いです。今から自分と向き合い、目標(=志望校)を決めましょう。そして目標が決まれば「目標達成に必要な学力」と「現在の学力」とのギャップを把握し、「これから何をすべきか」を明確にすることができます。

【 受験生としての心得 】

大学選択の幅、受験方式の幅を減らさないためにも、以下に挙げることを参考にしてください。

教科を減らして逃げない

1 国公立受験を諦めない！

7科目を勉強し続けるのは大変です。でも、国公立の方が勝ち目はあります。進学校の生徒でも文系なら数学は苦手だし、理系なら国語は苦手だからです。今のうちから、**国数英の基礎**を身に付けましょう。**国数英の「3本柱」がしっかりしていれば、ちょっとやそつとでは成績は下がりません。**また、後期試験は欠席率が約6割と多いため、最後まで諦めずに受験すれば合格のチャンスがあります。地道に努力を重ね、国公立大学への合格を勝ち取りましょう！

2 教科数を絞らない

2教科(例えば「現代文・英語」など)で受験できる大学も少なからずあります。しかし、得意な科目で受験するため、8~9割得点できる受験生と勝負しなくてはなりません。また、倍率も高くなる傾向にあります。第1志望だけでなく、併願校全て2教科で受けられるということもほとんどないので、**最低でも3教科、頑張り続けましょう。**

《 私立理系を志望している人へ 》

数学・英語の基礎を徹底的に身に付けることが大切です。理科を疎かにしていいわけではありませんが、必ず毎日数学と英語は勉強し続けましょう。3教科しかありませんので、数学と英語を極めなければなりません。また、国語も勉強しておく、受験方式を選択できる幅が広がります。

《 私立文系を志望している人へ 》

国語(特に時間のかかる現代文)・英語の基礎を徹底的に身に付けることが大切です。私立理系の人と同じように、社会を疎かにしていいわけではありませんが、必ず毎日国語と英語は勉強し続けましょう。3教科しかありませんので、国語と英語を極めなければなりません。

3 古文・漢文を捨てない

現代文のみで受験できる大学も多いですが、古文漢文は、現代文に比べて、「**基本的な語彙や文法の理解**」があれば**短期間で成績をあげられる**科目です。日東駒専以上を目指す人は特に、古文漢文を捨てないように注意しましょう。古文漢文を勉強していれば、受験方式の幅や受験できる大学の幅が広がります。

4 ワンランク上を目指す

- 埼大に行きたいと思っている人は、千葉大レベルを目指そう。
- 明治大に行きたいと思っている人は、早稲田大レベルを目指そう。
- 電機大に行きたいと思っている人は、芝浦工業大レベルを目指そう。
- 東洋大に行きたいと思っている人は、法政大レベルを目指そう。

最近、「安定志向」（＝確実に合格できる大学に出願する）という傾向がある。例えば、難関大学にだけでなく、中堅の大学まで幅広く出願するようになってきているということです。これによって、中堅の大学を第一志望校にしていた生徒にとっては、上位者達に合格を奪われることとなります。ギリギリ受かれば良いではなく、**余裕をもって合格できる**よう、ワンランク上の大学に合格するつもりで勉強しましょう。

【春休みに何を…？】

明日から春休みです。始業式までの約2週間をどのように過ごしますか？

1 課題は計画的に取り組もう

出された課題をやるのは当たり前のことです。ただし、課題をやるのに答えを単に写しただけでは意味がありません。出された課題1つ1つに意味があります。必ず、内容を理解することを心がけてこなすことが大切です。

2 苦手を克服しよう

春休みは、2年生の苦手分野を克服する絶好のチャンスです。3年生になってから1・2年生の復習を始めるのは遅いので、今のうちから苦手分野を克服しましょう。

3 第一志望校を決める

まだ第一志望校を決めてない人は、志望校を決めましょう。そして、その志望校の受験科目を調べましょう。学校によっては、外部英語検定の取得が出願要件になっていることもあります。3年生になってから調べて、出願要件に該当していないから出願できなかった…ということ为了避免するためにも、今のうちから志望校を決定し、調べておきましょう。

4 本・新聞を読む、ニュースを見る

本や新聞を読めば、読解力がつきます。語彙も増えます。新聞・ニュースで社会の動きを知ることができます。視野を広げるためにも、時間を見つけて読書をしましょう。新聞・ニュースから、社会がどのように動いているかを知りましょう。